2027年3月期 中間期 決算説明会

2026年11月12日
宝ホールディングス株式会社(2531)

本日の内容

Ⅰ. 中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ. 2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ. サステナビリティに対する取り組み

参考資料

本日の内容

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

中期経営計画2030の骨子 (2026年5月公表)

全体方針

事業ポートフォリオ戦略を支えるグローバルな経営基盤を早期に整備することで、
成長軌道へと回復させるとともに、長期的な成長の道筋を確立する

前半（2年間）
体質転換/立て直し/将来への布石

後半（3年間）
成長スピード加速/将来の成長ドライバー創出

財務目標

＜2031年3月期＞
ROIC 7%以上、ROE 10%以上
営業利益378億円以上、売上高4,930億円以上

（参考：2028年3月期）
ROIC 4.3%、ROE 6.1%
営業利益235億円
売上高4,290億円

財務方針

- ✓ これまでの成長・強化領域への投資効果の獲得により営業CF創出力を強化し、既存事業の効率性や新規事業創出に向けた投資を実行する
- ✓ 有利子負債の活用と政策保有株式・保有不動産売却を原資とした株主還元策により資本コストを低減する
- ✓ 累進配当を導入し、5年累計で総還元性向50%を基本方針とする。自己株式取得は、成長投資とのバランスを勘案して機動的に実施する

基本方針

①長期Vision 2050の実現に向けた事業ポートフォリオ戦略

②グループガバナンス/マネジメント体制の見直し

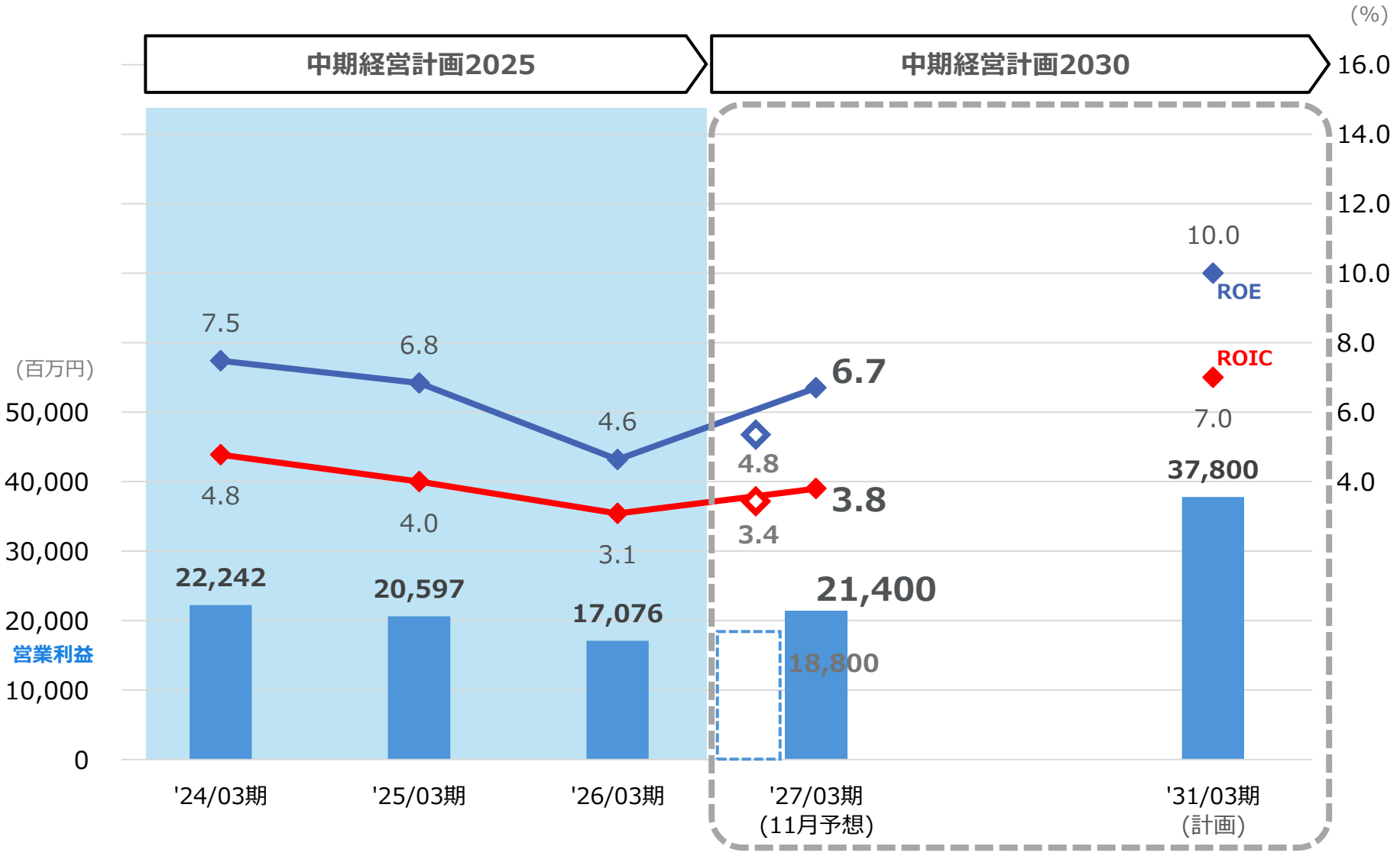
③ROIC重視の再徹底

④バイオ事業、日本食材卸事業を中心とした既存事業の収益構造改革

⑤グループシナジー発揮による成長の道筋の確立

中期経営計画2030　初年度の業績見通し

1年目のROIC、ROE、営業利益は計画を上回る見通し



中期経営計画2030の進捗　④-1　バイオ事業の収益構造改革

バイオ事業における収益構造改革は、1-2年目累計で計画を上回る見通し

■コスト削減の進捗状況（利益貢献額　通期の見通し）

1年目
計画：**912**百万円
2026年11月予想：**1,175**百万円 (計画比**129%**)

2年目
計画：**1,900**百万円
2026年11月予想：**1,782**百万円 (計画比　**94%**)

1-2年目累計
計画：**2,812**百万円
2026年11月予想：**2,957**百万円 (計画比**105%**)

*2026年11月現在における見込

■取り組みの一例

・人員の最適化を目的とした希望退職者の募集では、120名程度の募集に対して、今期中に148名が退職見込み

・GMP細胞加工受託事業からの撤退については、事業承継に関する基本契約書を承継先と締結し、事業内容の選択と集中を進めている

中期経営計画2030の進捗　④-1　バイオ事業の収益構造改革

■取り組みの一覧

*2026年11月現在における見込

テーマ	具体的な取り組み	中計1年目 利益貢献額 (計画比)	中計1-2年目累計 利益貢献額 (計画比)
コスト削減　合計		1,175百万円 （129%）	2,957百万円 （105%）
構造改革　計		659百万円 （158%）	2,463百万円 （106%）
人員の最適化を目的とした 希望退職者の募集	・148名の希望退職 (募集：120名程度) ・GMP細胞加工受託事業の承継関連	386百万円 （193%）	1,377百万円 （128%）
遺伝子治療の自社臨床開発 プロジェクトの中止	自社遺伝子治療臨床開発プロジェクト TBI-1301の中止	61百万円 （92%）	227百万円 （108%）
経営責任の明確化および 経営体制のスリム化	・取締役の員数の削減(実行済) ・役員報酬の自主返納(実行済) ・役員報酬の減額(2027年6月まで)	171百万円 （171%）	-
スウェーデンサイトの閉鎖	・最終製造を完了 ・労働協議完了の上、解雇通知を発行	-	275百万円 （138%）
上場関連費用の削減	2026年6月上場廃止	98百万円 （188%）	106百万円 （138%）
CGCPI,IIの保守費削減	保守費等の削減等	▲58百万円 (- %)	478百万円 （74%）
その他コスト		494百万円 （100%）	494百万円 （100%）
その他のコストカット		22百万円 (- %)	-

中期経営計画2030の進捗　④-2　海外日本食材卸事業の収益構造改革

海外日本食材卸事業において、売上高は為替影響を除いても前期比+7.7%と伸長する見通しの中、
価格改定の実施等による売上総利益率の改善や販管費率の増加抑制が寄与し、営業利益率の改善は着実に進んでいる

■進捗状況（通期の見通し）

売上総利益率	通期業績予想	**30.5**% (**29.5**%)	前期差	+**1.4**pt (+**0.5**pt)
販管費率	通期業績予想	**27.4**%	前期差	+**0.0**pt
営業利益率	通期業績予想	**3.1**% (**2.2**%)	前期差	+**1.4**pt (+**0.5**pt)

※()内は相互関税還付金計上による影響約22億円を除いた増減

■宝酒造インターナショナル本社による利益重視の意識付けと各社マネジメントの意識変革

・宝酒造インターナショナル経営陣が、2026年3-4月の欧州訪問、2026年5月の中計キックオフミーティング時等、海外子会社社長との対面ミーティングを継続的に実施し、中計達成に向けた利益重視の経営方針への転換を再徹底。各社経営層の意思決定において、売上総利益率改善や価格適正化を重視する経営方針が浸透
(例：月次会議等の場で、各社経営層と価格戦略や燃油サーチャージ等コスト改善について議論)

・各社での価格改定の実施、採算性を考慮した顧客対応、各種コスト転嫁など、利益改善に向けた取り組みが進展

■長期Vision 2050の実現に向けた事業ポートフォリオ戦略

・当社および当社完全子会社である川東商事が保有するノンコア不動産18件を売却
（引渡時期：2026年11～12月順次）

・当社の完全子会社であるタカラ物流システムの発行済株式の70%を譲渡
（実行日：2027年４月１日予定）

■グループガバナンス/マネジメント体制の見直し

「事業ポートフォリオ戦略委員会」を新たに設置し、 2026年9月15日に第1回を開催
(第１回参加メンバー：取締役、執行役員、事業会社の社長および担当役員、事業管理部)

・事業評価
事業の成長性、収益性および資本効率について、外部の客観的な視点を取り入れ、
横断的に評価。資本効率向上に向けた論点整理を開始

・経営資源配分方針
各事業の競争優位性・事業特性を踏まえ、中長期的な事業ポートフォリオの最適化、
グループ全体の企業価値向上に向けた経営資源配分の方向性について議論開始

・次回委員会に向けた準備
〇12月に予定している第2回開催に向けて、複数事業において、事業継続、成長投資、
再構築等の方向性を判断するための評価基準や論点を具体化し、見極めに向けた
分析・検証を開始
〇さらなる外部の知見の活用に向けた準備を進めている

中期経営計画2030 キャッシュアロケーション

		中計2025期間 3年間累計	中計2030期間 1-2年目累計	中計2030期間 3-5年目累計
資金創出・調達	営業CF	626億円	485億円	1,090億円
	負債 (返済含む)	178億円	305億円	▲145億円
	資産効率化他	政策保有株式の売却 176億円	政策保有株式の売却 110億円	政策保有株式の売却 80億円
		手元資金の活用など 337億円	手元資金の活用など 30億円	手元資金の活用など 25億円
			ノンコア不動産の売却 130億円	事業の見直し +(β2)億円
			事業ポートフォリオ戦略の見直し 事業の見直し +50億円(β1)	
資金使途	成長・強化領域投資	433億円	200億円	35億円
	M&A投資等	357億円	タカラバイオTOB 540億円	さらなる成長投資 200億円+50億円(β1)+β2
	維持更新投資等	238億円	180億円	225億円
	株主還元	289億円 (うち自己株式の取得 60億円)	190億円 (自己株式取得含む)	540億円 (自己株式取得含む)

本日の内容

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

１．宝グループ連結
２．宝酒造
３．宝酒造インターナショナルグループ
４．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

2027年3月期　宝ホールディングス（連結）中間期業績および通期業績予想

売上高は、中間期業績・通期業績予想ともに前期比で増収。
売上総利益、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、中間期業績・通期業績予想ともに前期比で増益。

なお、相互関税還付金の影響を除いても、営業利益で中間期＋47.9%、通期＋10.0%と増益を見込む

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	期初予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	期初予想比
売上高	**210,870**	+ 13.0%	+ 2.9%	**430,000**	+ 9.0%	+ 2.4%
売上総利益	**69,753**	+ 13.2%	+ 5.1%	**140,600**	+ 10.1%	+ 2.9%
(売上総利益率)	33.1%	+ 0.0pt	+ 0.7pt	32.7%	+ 0.3pt	+ 0.2pt
営業利益	**13,112**	+ 68.4%	+ 49.0%	**21,400**	+ 25.3%	+ 13.8%
(営業利益率)	6.2%	+ 2.0pt	+ 1.9pt	5.0%	+ 0.6pt	+ 0.5pt
親会社株主に帰属する当期純利益	**11,682**	+ 105.1%	+ 98.0%	**17,400**	+ 48.8%	+ 46.2%

※相互関税還付金の計上による売上原価のマイナス(中間期+16億円、通期+26億円)を除いた場合

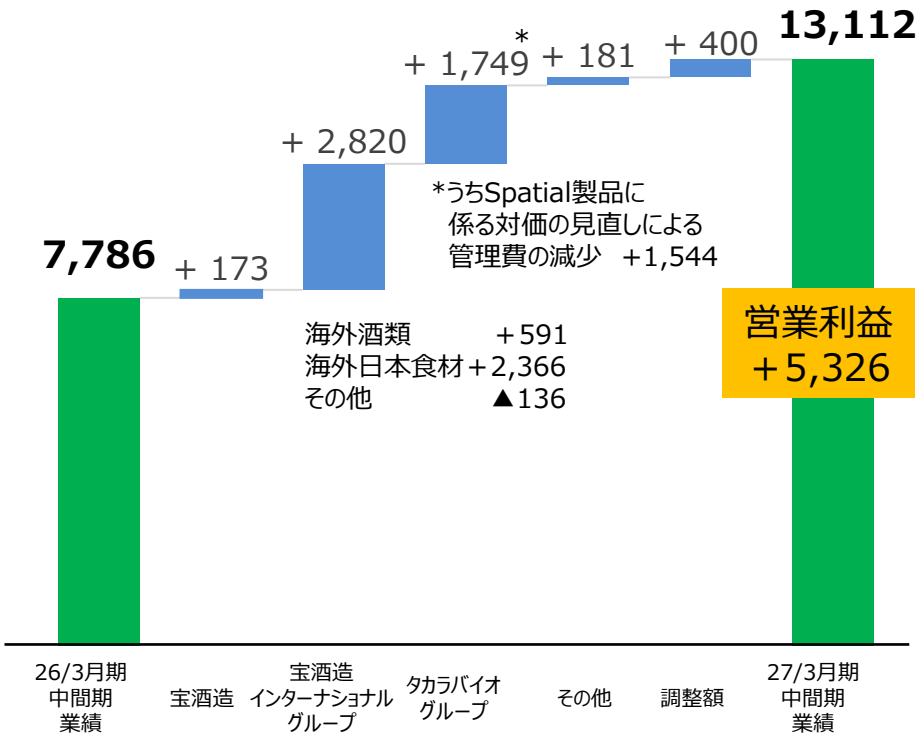
(単位：百万円)

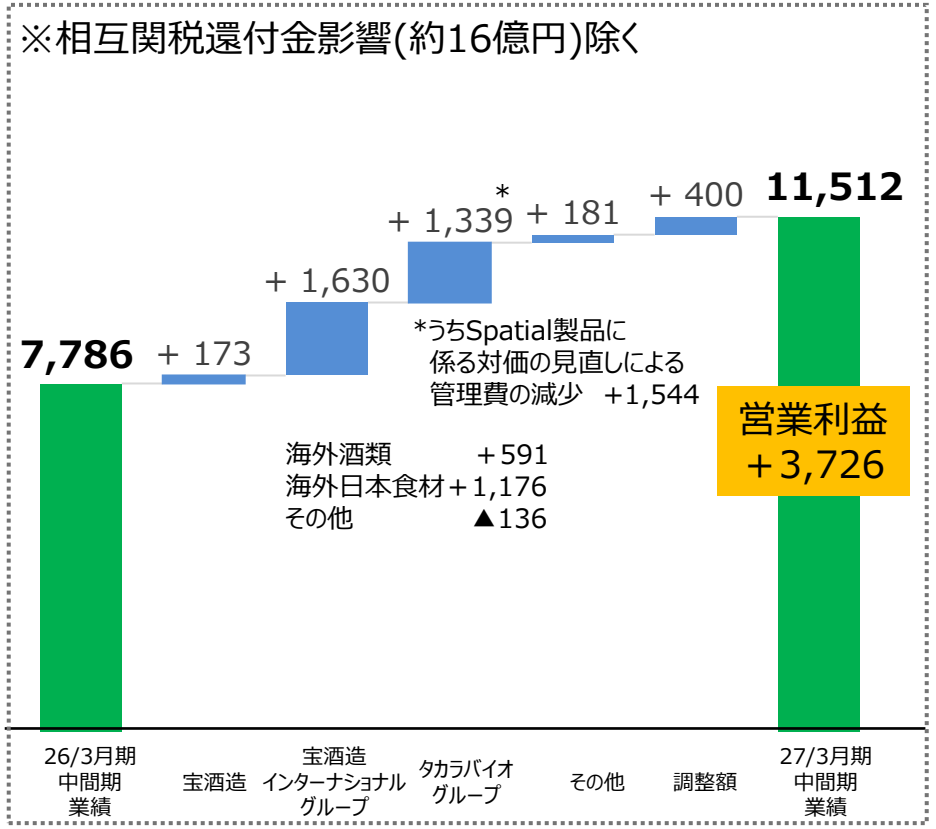
	2027年3月期 中間期業績	前期比	期初予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	期初予想比
売上総利益	68,153	+ 10.6%	+ 2.6%	137,990	+ 8.1%	+ 1.0%
(売上総利益率)	32.3%	▲ 0.7pt	▲ 0.1pt	32.1%	▲ 0.3pt	▲ 0.4pt
営業利益	11,512	+ 47.9%	+ 30.8%	18,790	+ 10.0%	▲ 0.1%
(営業利益率)	5.5%	+ 1.3pt	+ 1.2pt	4.4%	+ 0.0pt	▲ 0.1pt

2027年3月期　中間期　セグメント別　連結営業利益増減分析

各事業で増益となり、全体でも増益

◇連結営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）





2027年3月期　事業別　通期業績見通しの前提

宝酒造は、容器包装品等の価格高騰によるコストアップが下期にかけて拡大し、売上総利益率が悪化する見込み

宝酒造インターナショナルグループは、海外日本食材卸事業において収益性改善が継続するものの、
今期下期以降、中東情勢長期化等の影響によるインフレの継続を背景に、消費者の節約志向が強まり、
上期と比べて増収増益基調が鈍化する見通し

タカラバイオグループは、ライフサイエンス研究市場の低迷が継続する中、Spatial製品に係る対価見直しが
上期および通期では利益の押し上げ要因となるが、下期だけでみると利益の押し下げ要因となる見込み

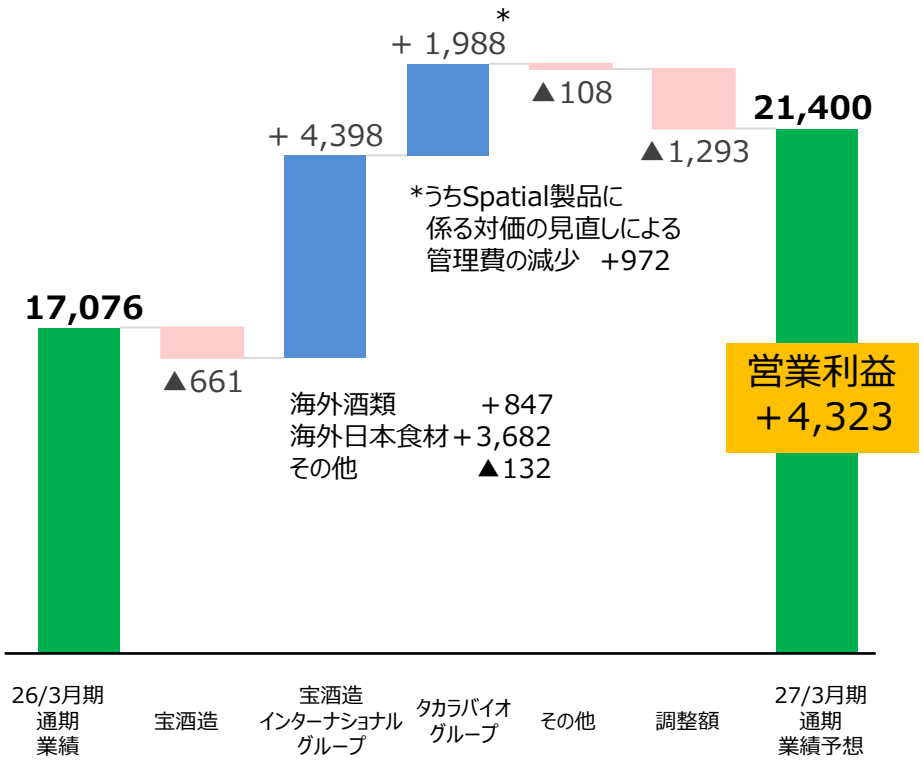
■各事業における対前期営業利益成長の減速要因

事業	要因
宝酒造	・容器包装品等の価格高騰によるコストアップ影響の拡大 （売上原価率　上期：75.8%、下期76.7%） ・2026年10月価格改定の影響 （上期：前倒し需要、下期：数量減）
宝酒造 インターナショナル グループ	・今期下期以降、中東情勢長期化等の影響によるインフレの継続を背景に、 消費者の節約志向が強まり、増収増益基調が鈍化 （今期 海外日本食材卸事業　営業利益額　上期：40億円、下期：30億円） ・相互関税還付金の影響額の縮小 (売上原価への影響額　上期 ▲約12億円、下期 ▲約10億円)
タカラバイオグループ	・Spatial製品に係る対価の見直しによる管理費の影響の反転 (管理費の増減額　上期 ▲約15億円、下期 +約5億円) ・相互関税還付金の影響額の縮小 (売上原価への影響額　上期 ▲約4億円、下期 -)

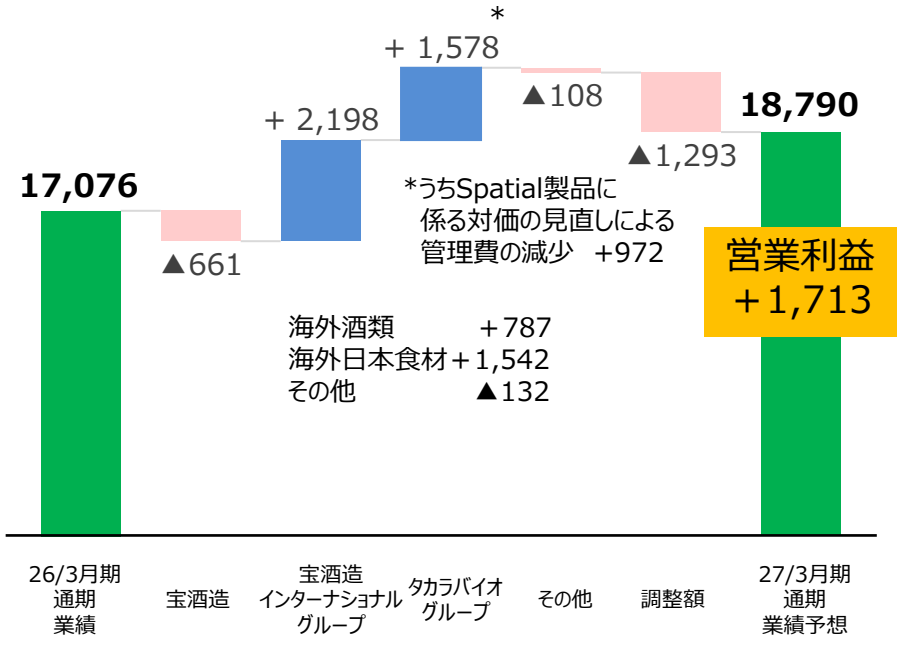
2027年3月期　通期業績予想　セグメント別　連結営業利益増減分析

宝酒造は容器包装品等の価格高騰によるコストアップ影響により減益を見込むものの、宝酒造インターナショナルグループにおける海外日本食材事業の収益性改善や、タカラバイオグループの営業損失額縮小により増益を見込む

◇連結営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



※相互関税還付金影響(+約26億円)除く



2027年3月期業績予想 株主還元

中期経営計画2030の還元方針（累進配当、総還元性向50%以上）、今回の業績予想の上方修正を踏まえ、3円増配し、一株当たり34円とする。

また、2026年5月に発表した通り、前期に売却した政策保有株式の売却益を活用し、自己株式の取得を実施済。

以上を踏まえ、総還元性向は54.6%となる見通し

■2027年3月期 配当、配当性向（予定）

配当 (配当性向)	5月予想差
34.0円 (37.5%)	+3.0円

■自己株式の取得（実施済）

取得株式数	取得総額	取得期間
1,429,400株 (上限 190万株)	2,999,793,200円 (上限 30億円)	2026年5月15日 ～2026年6月12日

■2027年3月期 総還元性向（予定）

総還元性向	5月予想差
54.6%	+4.4pt

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

2027年3月期　宝酒造　中間期業績および通期業績予想

中間期業績は、ソフトアルコール飲料等の伸長により、売上高は全体でも前期比+3.3%増収。営業利益は、コストアップにより売上総利益が減少する中、広告宣伝費の効率的な運用等により前期比+7.1%の増益。

通期業績予想は、売上高は5月予想並みを見込む一方、コストアップ等により売上総利益が計画を下回り、営業利益は前期および5月予想を下回る見通し

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**59,669**	+ 3.3%	▲ 1.4%	**120,484**	+ 1.1%	+ 0.3%
売上原価	**45,205**	+ 4.8%	▲ 0.7%	**91,876**	+ 3.3%	+ 2.4%
(売上原価率)	75.8%	+ 1.1pt	+ 0.5pt	76.3%	+ 1.6pt	+ 1.6pt
売上総利益	**14,464**	▲ 1.2%	▲ 3.6%	**28,608**	▲ 5.2%	▲ 5.9%
(売上総利益率)	24.2%	▲ 1.1pt	▲ 0.5pt	23.7%	▲ 1.6pt	▲ 1.6pt
営業利益	**2,638**	+ 7.1%	+ 2.9%	**5,068**	▲ 11.5%	▲ 13.1%
(営業利益率)	4.4%	+ 0.2pt	+ 0.2pt	4.2%	▲ 0.6pt	▲ 0.6pt

【参考：カテゴリー別売上高】

(単位：百万円)

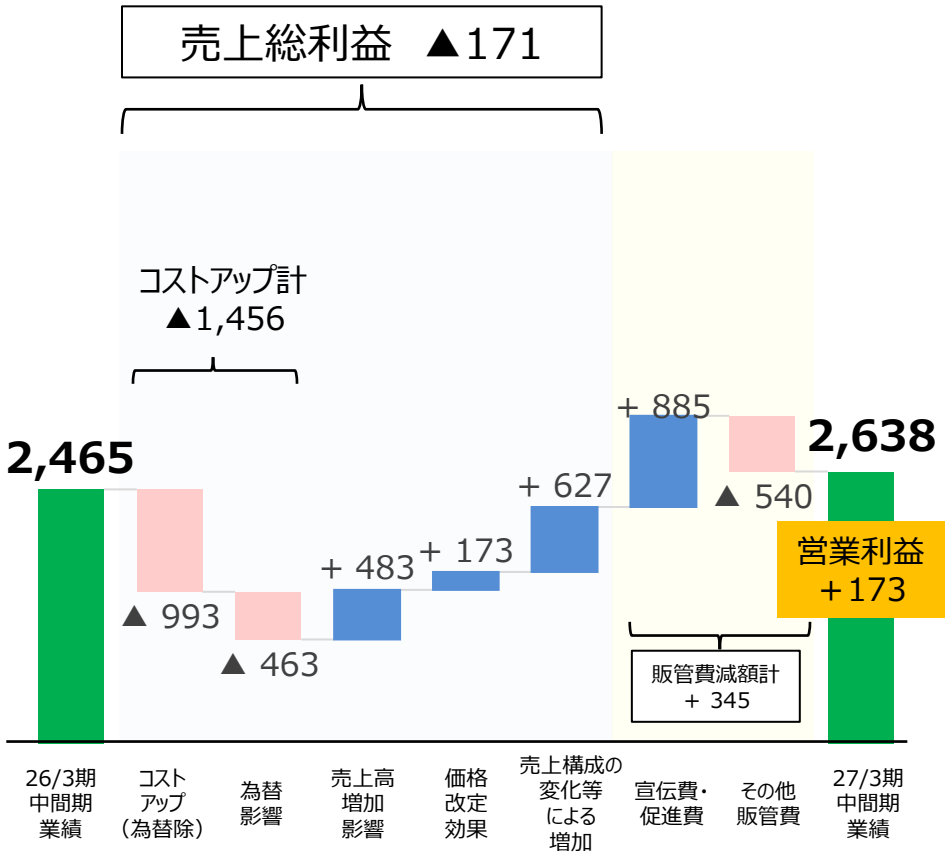
	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
焼酎	**14,792**	▲ 1.1%	+ 3.0%	**28,833**	▲ 2.7%	+ 2.9%
清酒	**3,871**	+ 3.8%	▲ 4.8%	**10,255**	▲ 5.6%	▲ 4.9%
ソフトアルコール飲料	**24,156**	+ 9.8%	▲ 4.3%	**47,126**	+ 7.1%	▲ 0.5%
その他酒類	**2,100**	▲ 0.2%	+ 5.3%	**4,233**	▲ 5.7%	+ 4.5%
本みりん	**5,002**	+ 7.2%	+ 1.9%	**9,930**	+ 0.1%	+ 1.2%
その他調味料	**4,650**	+ 2.7%	▲ 0.8%	**9,604**	+ 1.4%	▲ 0.3%
原料用アルコール	**5,095**	▲ 11.7%	▲ 2.9%	**10,500**	▲ 2.4%	+ 0.8%

2027年3月期　宝酒造　営業利益増減分析

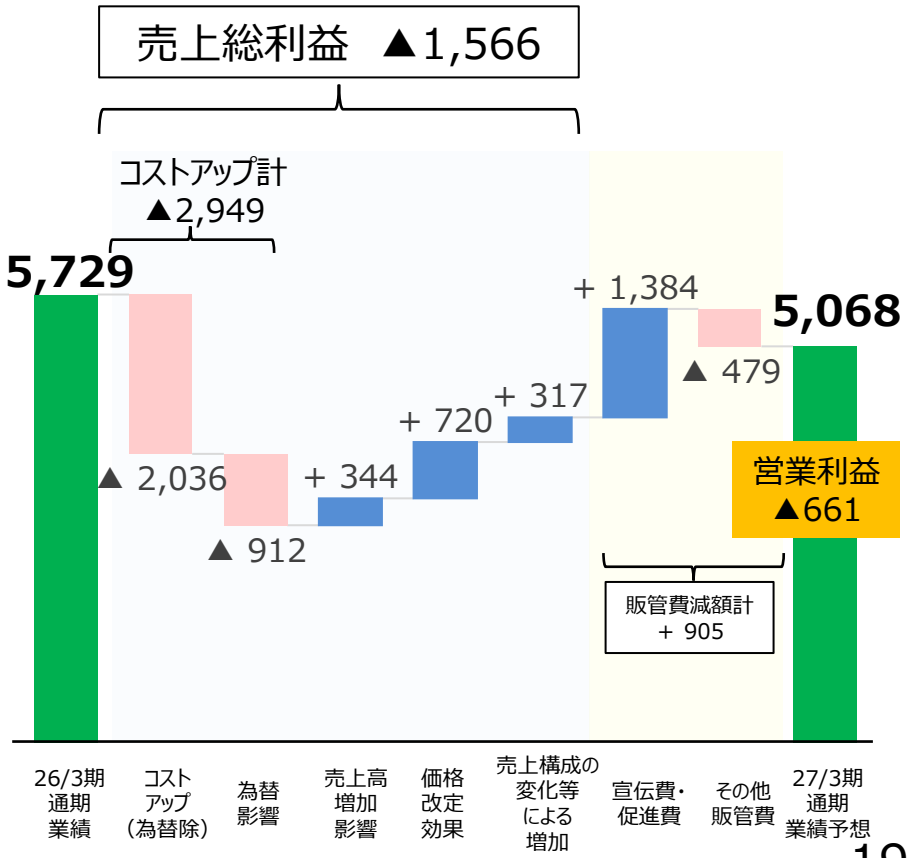
通期業績予想では、価格改定効果や広告宣伝費・販売促進費の効率的な運用に努めるものの、
容器包装品等の価格高騰および為替影響によるコストアップの影響が大きく、また、2026年10月の
価格改定により中間期には前倒し需要、下期には反動減が生じるため、通期では中間期と比べて
売上高増加影響が小さくなること等により、減益となる見通し

◇営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）

中間期業績



通期業績予想



2027年3月期　宝酒造　重点ブランド　主な取り組み状況

中間期業績および通期業績予想においても、重点領域、重点ブランドともに構成比（前期差）は拡大

■重点領域、重点ブランド売上高構成比

	2027年3月期 中間期業績	前期差	2027年3月期 通期業績予想	前期差
重点領域	**46.0%**	+ 2.6pt	**45.1%**	+ 1.7pt
重点ブランド	**43.9%**	+ 2.6pt	**42.9%**	+ 1.7pt

※重点領域、重点ブランドの構成商品

・重点領域　　：重点ブランド、食品調味料(だし)、輸出商品
・重点ブランド：極上「宝焼酎」、一刻者、 ISAINA、澪、昴、瑞音、焼酎ハイボール、辛口ゼロボール、
　　タカラ本みりん

2027年3月期　宝酒造　重点ブランド　主な取り組み状況

主力の「焼酎ハイボール」を中心に、価格改定や限定商品の逐次投入を実施

重点ブランド	主な取り組み状況	今後の取り組み
・焼酎ハイボール (27/03期通期業績予想 重点ブランドにおける 売上高構成比：約72%)	■酒税改正＆価格改定の対応 ■主な投入商品 ・アルコール分7%商品のラインアップ強化 山椒サワー、北海道白ぶどう（限定品）他発売 ・アルコール分5%商品のラインアップ強化 冷や塩レモン（限定品）他発売	強烈みかんサイダー割り他 岩下の新生姜割り他
・極上「宝焼酎」 ・一刻者 ・ISAINA ・澪 ・昴 ・瑞音 ・辛口ゼロボール ・タカラ本みりん	■酒税改正への対応 ・澪 ■価格改定の実施 ・本みりん ■主な投入商品 ・澪：洋梨のような香り（限定品）発売 ・ISAINA：レモン缶 ・辛口ゼロボール：ジンジャーエール他発売	「澪」〈GOLD〉 スパイシーコーラ

2027年3月期　宝酒造　新商品

新たな需要の掘り起こしの取り組みとして、「無炭酸ニーズ」「気分転換ニーズ」など、
多様化する消費者ニーズをとらえた商品開発を実施

新たな飲用ニーズ	主な商品
無炭酸ニーズ	【タカラ無炭酸チューハイ「するり」】  【宝焼酎のお茶割りシリーズ】  NEW
気分転換ニーズ	【タカラノンアルサワー「ぎゅぎゅぎゅ」】  【タカラ「辛口ゼロボール」】  12/1 発売 〈スパイシーコーラ〉
自由なアレンジニーズ	【宝焼酎「アドリブ」】  【緑茶割りのための極上〈宝焼酎〉】 

本日の内容

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

2027年3月期　宝酒造インターナショナルグループ　中間期業績および通期業績予想

中間期業績、通期業績予想ともに、海外酒類事業および海外日本食材卸事業の増収に加え、
海外日本食材卸事業における売上総利益率改善や販管費率の抑制により、前期比で大きく増益

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	**2027年3月期 通期業績予想**	前期比	5月予想比
売上高	**125,051**	+ 20.4%	+ 5.7%	**255,000**	+ 14.9%	+ 5.1%
売上総利益	**42,477**	+ 24.1%	+ 10.1%	**85,870**	+ 17.9%	+ 9.1%
(売上総利益率)	34.0%	+ 1.0pt	+ 1.3pt	33.7%	+ 0.9pt	+ 1.2pt
販管費	**32,997**	+ 19.7%	+ 5.6%	**67,270**	+ 14.8%	+ 5.5%
(販管費率)	26.4%	▲ 0.1pt	▲ 0.0pt	26.4%	▲ 0.0pt	+ 0.1pt
営業利益	**9,479**	+ 42.4%	+ 29.1%	**18,600**	+ 31.0%	+ 24.0%
(営業利益率)	7.6%	+ 1.2pt	+ 1.4pt	7.3%	+ 0.9pt	+ 1.1pt

※相互関税還付金の計上による売上原価のマイナス(中間期+11億円、通期+22億円)を除いた場合

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上総利益	41,287	+ 20.6%	+ 7.0%	83,670	+ 14.9%	+ 6.3%
(売上総利益率)	33.0%	+ 0.1pt	+ 0.4pt	32.8%	▲ 0.0pt	+ 0.4pt
営業利益	8,289	+ 24.5%	+ 12.9%	16,400	+ 15.5%	+ 9.3%
(営業利益率)	6.6%	+ 0.2pt	+ 0.4pt	6.4%	+ 0.0pt	+ 0.2pt

2027年3月期　海外日本食材卸事業　中間期業績および通期業績予想

中間期業績、通期業績予想ともに、価格改定や為替影響等により増収を見込む。

売上総利益率の改善、販管費率の増加抑制も寄与し、通期業績予想では、営業利益は前期比108%増となる見通し

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	**2027年3月期 通期業績予想**	前期比	5月予想比
売上高	**111,158**	+ 20.8%	+ 6.1%	**225,600**	+ 15.1%	+ 4.8%
売上総利益	**34,266**	+ 26.7%	+ 11.8%	**68,800**	+ 20.7%	+ 9.5%
(売上総利益率)	30.8%	+ 1.4pt	+ 1.6pt	30.5%	+ 1.4pt	+ 1.3pt
販管費	**30,234**	+ 19.1%	+ 5.9%	**61,709**	+ 15.2%	+ 5.9%
(販管費率)	27.2%	▲ 0.4pt	▲ 0.1pt	27.4%	+ 0.0pt	+ 0.3pt
営業利益	**4,031**	+ 142.1%	+ 93.8%	**7,091**	+ 108.0%	+ 55.5%
(営業利益率)	3.6%	+ 1.8pt	+ 1.6pt	3.1%	+ 1.4pt	+ 1.0pt

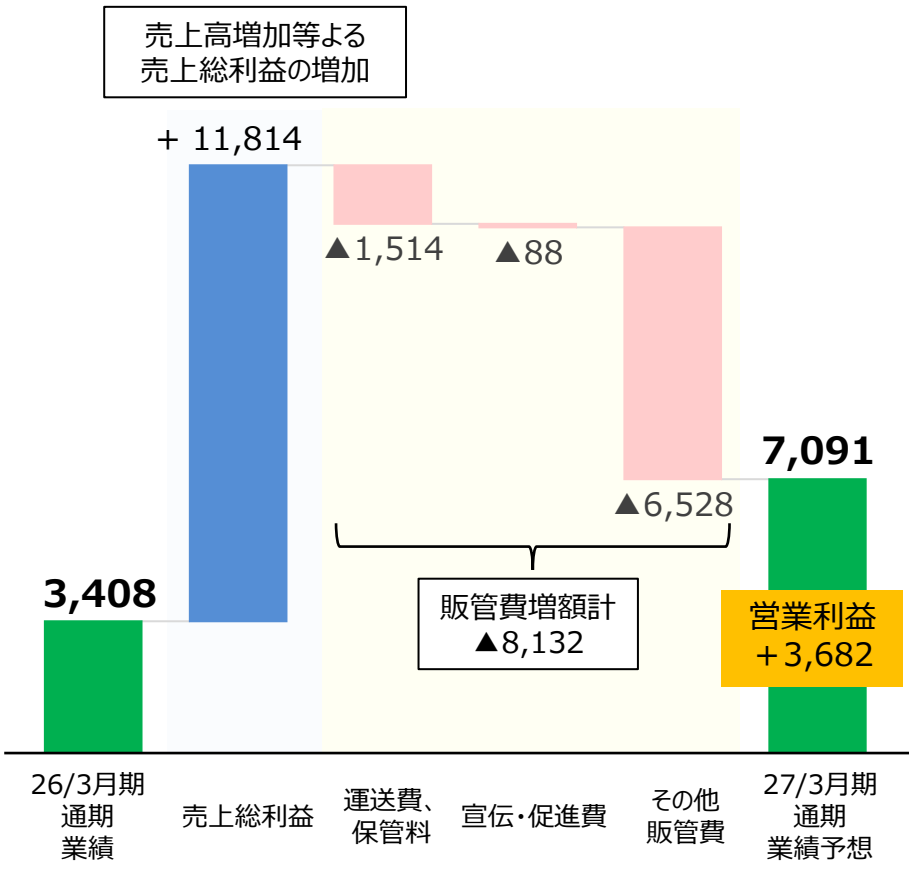
※相互関税還付金の計上による売上原価のマイナス(中間期+11億円、通期+22億円)を除いた場合

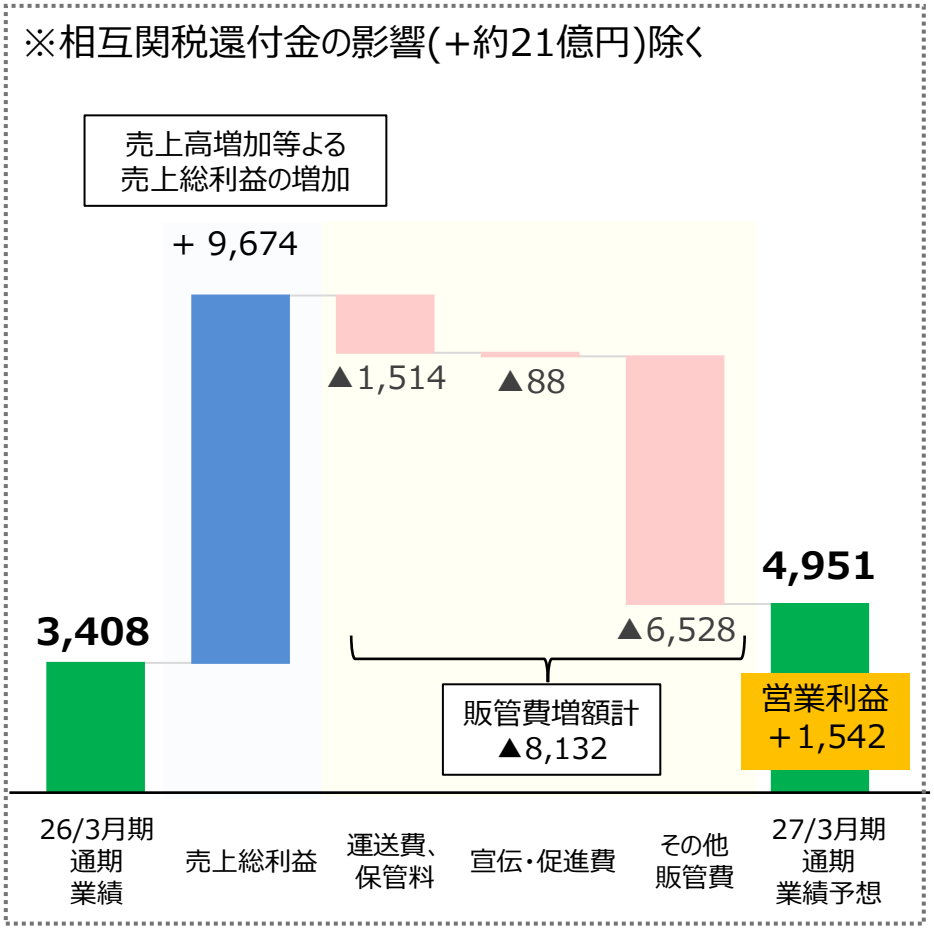
(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上総利益	33,076	+ 22.3%	+ 8.0%	66,660	+ 17.0%	+ 6.1%
(売上総利益率)	29.8%	+ 0.4pt	+ 0.5pt	29.5%	+ 0.5pt	+ 0.4pt
営業利益	2,841	+ 70.6%	+ 36.6%	4,951	+ 45.3%	+ 8.6%
(営業利益率)	2.6%	+ 0.7pt	+ 0.6pt	2.2%	+ 0.5pt	+ 0.1pt

2027年3月期　海外日本食材卸事業　通期業績予想　営業利益増減分析

◇営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）





2027年3月期　海外日本食材卸事業　営業利益率改善に向けた取り組み

売上総利益率改善に向けた取り組みとして、水産品、調味料における高付加価値商材の拡売を推進。

利益重視の方針のもと、グループ各社で価格改定等を実施

■高付加価値商材の拡充と拡売

◇2027年3月期中間期 売上高前期比・構成比

	売上高 前期比	水産品、調味料 カテゴリー内における 売上高構成比	売上高構成比 前期差
水産品 (高付加価値商材)	+29.5%	34.7%	+2.0pt
調味料 (高付加価値商材)	+23.4%	46.9%	+0.6pt

■価格改定の推進

・タザキフーズ社：４月より一斉に値上げを実施
・フーデックス社：サーモン等の売れ筋商品の価格改定を実施
・カーゲラー社：　社長、仕入れ担当、経理担当を交えた月次の価格改定ミーティングを実施

■各社の取り組み

・ミューチャルトレーディング社：
専任スタッフを配置し、築地太田社の鮮魚（ウニ、ノドグロなど）を高級寿司店へ拡売、新規拠点であるヒューストン、シアトルの売上拡大
・フーデックス社：利益重視の考えのもと、営業体制、組織体制の整備
・コミンポート社：高単価業態であるフュージョン系レストラン等へ高付加価値商材を提案

2027年3月期　海外日本食材卸事業　営業利益率改善に向けた取り組み

・各社において、配送効率の最適化に向けた取り組みを進めたこと等により、事業全体の販管費率の上昇を抑制

・海外子会社の経営データを横断的に可視化する、マネジメントシステムの導入、活用に向けた取り組みを開始

■販管費率抑制の進捗と主な取り組み

	中間期業績	中間期業績 前期差	通期予想	通期業績予想 前期差
販管費率	27.2%	▲0.4pt	27.4%	+0.0pt

(取り組み内容)

・ミューチャルトレーディング社
倉庫、トラックドライバーの人員配置の最適化
商品転送の回数減による、配送効率化
退職者補充の抑制等

・タザキフーズ社
宅配便も活用する等、発注額に応じた効率化

■グローバルマネジメントシステムの構築状況

想定スケジュール	主な取り組み内容
2026年9月～11月	**システム構想を策定** 収益改善施策の立案・進捗管理に必要な管理指標を選定
2026年12月～2027年6月	**モデル会社で運用を開始** 経営データの可視化・ダッシュボード化を進め、同一基準での収益分析や改善施策のPDCA運用を開始
2027年7月～10月	**グループ各社へ展開** 各社横断で収益性・在庫効率を比較分析できる体制を構築
2027年11月以降	**データ活用による収益改善を本格化** 集中購買、需要予測精度向上、在庫最適化、販管費管理の高度化、営業利益率向上

2027年3月期　海外日本食材卸事業　調味料拡大に向けた取り組み

「和酒・日本食を世界の日常に」の具現化に向け、グループ共通ブランドとして「京寶」ブランドを開発。
フーデックス社、ミューチャルトレーディング社と宝酒造との協業により、食品調味料２アイテムを発売

商品名	特長	中心エリア	輸出開始時期（予定）
【京寶（KYOTaKaRa）白だし】 	フーデックス社および宝酒造との協業により開発 かつお節や煮干しなどの動物性原料を使用せず、こんぶだしのうま味を活かした風味豊かな白だし	欧州	2026年12月 (フーデックス社、コミンポート社先行)
【京寶（KYOTaKaRa）ご飯炊き立て上手】 	ミューチャルトレーディング社および宝酒造との協業により開発 炊き立てのお米のおいしさと食感を長時間維持。 カリフォルニア米等、硬水を使用した炊飯でも安定したおいしさを維持	米国	2027年1月

2027年3月期　海外酒類事業　中間期業績および通期業績予想

中間期業績は、エイジ・インターナショナル社が牽引し、全体で増収増益となった。

通期業績予想は、売上高では、エイジ・インターナショナル社の好調が継続することに加え、米国宝酒造および宝酒造食品で増収を見込む。
営業利益では、コスト上昇等の影響は受けるものの、エイジ・インターナショナル社の好調により、増益となる見通し

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**15,222**	+ 15.6%	+ 1.7%	**31,800**	+ 11.6%	+ 5.6%
売上総利益	**8,182**	+ 14.2%	+ 2.9%	**17,080**	+ 7.7%	+ 7.3%
(売上総利益率)	53.7%	▲ 0.7pt	+ 0.6pt	53.7%	▲ 1.9pt	+ 0.8pt
営業利益	**6,359**	+ 10.3%	+ 2.9%	**13,340**	+ 6.8%	+ 9.0%
(営業利益率)	41.8%	▲ 2.0pt	+ 0.5pt	41.9%	▲ 1.9pt	+ 1.3pt

2027年3月期　海外酒類事業　主な取り組み進捗　和酒事業(輸出)

和酒の輸出は、アジア・オセアニアを中心に営業力を強化

■和酒輸出状況（中間期業績）

和酒輸出売上高	前期比
7.4億円	▲0.2%

＜アジア・オセアニア＞

前期比＋6%

(取り組み)

・「アジア太平洋推進室」のセールス人員数増による
　重点7エリアでの商談強化

・韓国において「澪」が量販店やEC販売で採用
　「昴」も引き続き好調に推移

（通期業績予想）

和酒輸出売上高	前期比
14.0億円	＋5.9%

前期比＋16%

（今後の主な取り組み）

・「焼酎ハイボール」、リキュールの「季と香」
　等のラインアップを強化



・準重点エリアであるベトナム、フィリピン、
　マレーシアに注力

2027年3月期　海外酒類事業　主な取り組み進捗　洋酒事業

エイジ・インターナショナル社では、米国以外の新たなエリアで新規顧客を獲得し、売上の拡大を図る

●エイジ・インターナショナル社（中間期業績）

売上高	前期比
91.2億円	＋26.6%

（通期業績予想）

売上高	前期比
189.4億円	＋16.7%

■ブラントン育成活動
（取り組み）

・韓国、フランスでの発売
イベント開催



（今後の主な取り組み）

＜韓国＞
・11月大韓航空の機内免税で
販売開始
（ストレート・フロム・ザ・バレル）





Seoul Int'l Bar & Spirits Show 2026
(韓国 ソウル)



Whisky Live Paris 2026
(フランス パリ)

＜米国＞
・デルタ航空にて
ミニチュアボトル50ml採用
・12月ファースト・ビジネスクラスの機内
サービスに採用

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

2027年3月期　タカラバイオグループ　中間期業績および通期業績予想

中間期業績は、売上高は、試薬事業、遺伝子医療事業が増加し、増収。売上総利益は、相互関税の還付金の計上があるものの、商品構成の変化などにより減少。営業利益は、Spatial製品の開発及び売上進捗に応じた対価の見直しにより販管費が減少したことで、前期より営業損失額が約17億円縮小。

通期業績予想は、売上高は、試薬、遺伝子医療が増加し、増収。商品構成の改善により売上総利益が増加することに加え、通期でもSpatial製品の開発及び売上進捗に応じた対価の見直しにより経費が減少することで、営業損失額は前期から19億円減少する見通し

※Spatial製品の開発及び売上進捗に応じた対価の見直しによる販管費への影響
　中間期：▲約15億円、　下期+約5億円、通期：▲約9億円

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期差	5月予想差	**2027年3月期 通期業績予想**	前期差	5月予想差
売上高	**19,525**	**+ 730**	**▲ 374**	**41,284**	**+ 965**	**▲ 2,716**
売上総利益	**10,303**	**▲ 261**	**▲ 218**	**21,528**	**+ 1,266**	**▲ 1,262**
(売上総利益率)	52.8%	▲ 3.4pt	▲ 0.1pt	52.1%	+ 1.9pt	+ 0.4pt
営業利益	**▲ 593**	**+ 1,749**	**+ 1,756**	**▲ 2,700**	**+ 1,988**	**-**
(営業利益率)	▲ 3.0%	+ 9.4pt	+ 8.8pt	▲ 6.5%	+ 5.1pt	▲ 0.4pt

※相互関税還付金の計上による売上原価のマイナス(中間期+4億円、通期+4億円)

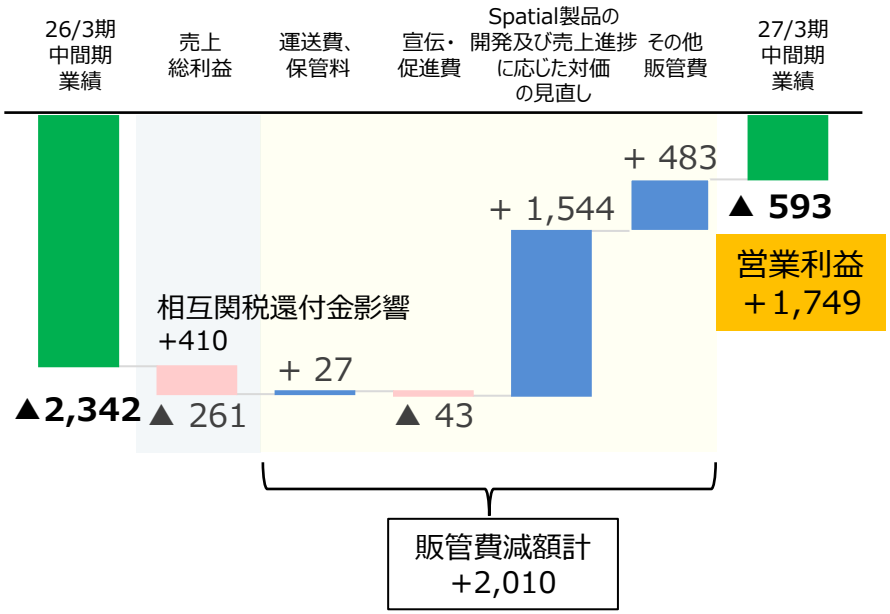
(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期差	5月予想差	2027年3月期 通期業績予想	前期差	5月予想差
売上総利益	9,893	▲ 671	▲ 629	21,118	+ 856	▲ 1,672
(売上総利益率)	50.7%	▲ 5.5pt	▲ 2.2pt	51.2%	+ 0.9pt	▲ 0.6pt
営業利益	▲ 1,003	+ 1,339	+ 1,346	▲ 3,110	+ 1,578	▲ 410
(営業利益率)	▲ 5.1%	+ 7.3pt	+ 6.7pt	▲ 7.5%	+ 4.1pt	▲ 1.4pt

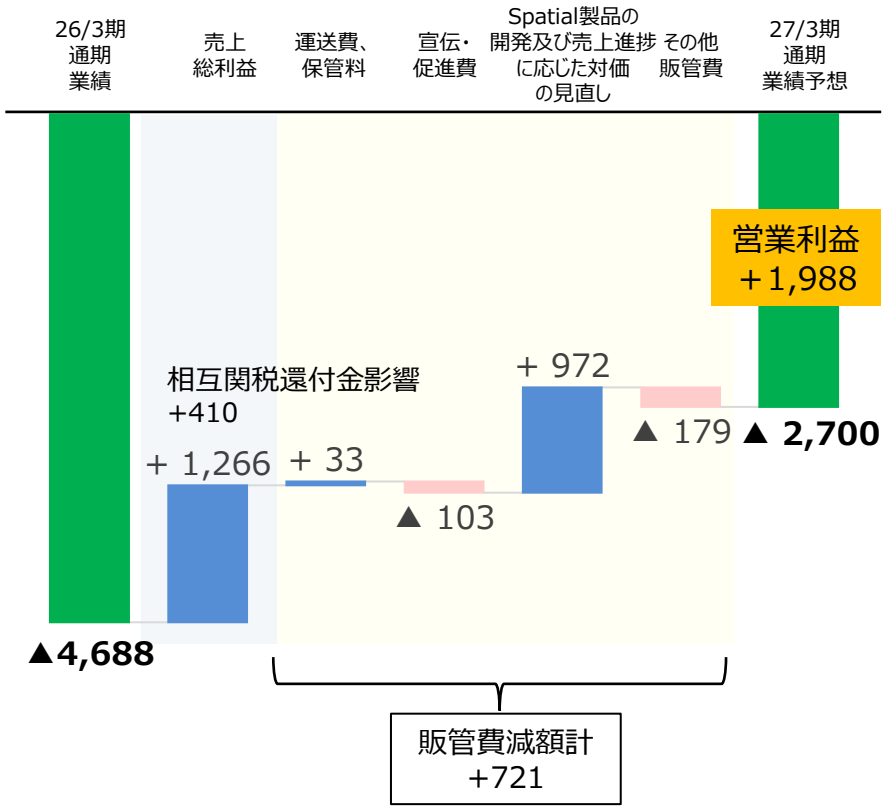
2027年3月期　タカラバイオグループ　営業利益増減分析

◇営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）

中間期業績



通期業績予想



2027年3月期　試薬事業　主な取り組み状況

世界的にライフサイエンス研究市場の低迷が継続しており、特に中国では価格競争激化等の影響が継続。

一方、米国・欧州を中心にBtoBビジネスは堅調に推移しているほか、Spatial製品についても顧客導入の進展や利用拡大に向けた取り組みが進んでいるが、BtoC(カタログ製品)の落ち込みをカバーするためには、さらなる拡大が必要

■地域別売上高

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	2027年3月期 通期業績予想	前期比
米国	**7,407**	+ 8.2%	**14,946**	+ 15.0%
日本	**2,720**	▲ 1.8%	**6,443**	▲ 0.7%
欧州	**2,015**	+ 14.7%	**4,064**	+ 13.8%
中国	**1,943**	+ 0.8%	**3,941**	▲ 5.5%
合計	**15,137**	+ 6.1%	**31,538**	+ 8.0%

2027年3月期　受託事業、遺伝子医療事業　主な取り組み状況

受託事業は、前期の大口案件剥落により減収を見込む。

遺伝子医療事業は、RetroNectin®およびmRNAワクチン製造用酵素の販売拡大により伸長

■受託事業

・前期にあった大口案件が、今期は顧客の開発サイクルに伴う案件発生時期の影響により発生せず、前期比▲22%

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	2027年3月期 通期業績予想	前期比
再生医療等制品	**1,048**	▲ 35.3%	**2,575**	▲ 33.2%
遺伝子解析/検査	**756**	+ 3.4%	**2,749**	▲ 11.1%
その他	**187**	▲ 2.4%	**363**	+ 7.5%
合計	**1,992**	▲ 21.7%	**5,689**	▲ 22.0%

■遺伝子医療事業

・中間期でRetroNectin®の大口顧客の需要が増加
・mRNAワクチン製造用酵素の販売は順調に伸びており、日本や欧州で販売増加

(単位：百万円)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	2027年3月期 通期業績予想	前期比
遺伝子医療	**2,036**	+ 29.4%	**3,209**	+ 9.4%

本日の内容

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

中長期目標に対する重要テーマの進捗状況

テーマ	取り組み	進捗	中長期目標 （2030年度まで）
気候変動	CO_2排出量削減 （2018年度比）	23.0% （2025年度）	生産拠点におけるCO_2排出量（Scope1,2）を2018年度比46%削減 (宝酒造、 宝酒造ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ)
水資源	用水原単位削減 （2017年度比） 生産拠点における 用水使用量の 第三者保証を取得 （宝酒造）	13.5% （2025年度）	生産工程での用水使用料の削減 2017年度比20%削減 （宝酒造）
サーキュラエコノミー	プラスチック廃棄物削減 （宝酒造）	231t （2025年度）	プラスチック廃棄物 250t未満に削減 （宝酒造）

TNFDフレームワークへの対応

TNFD Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

TaKaRa

TNFDフレームワークに基づく自然関連情報を開示。

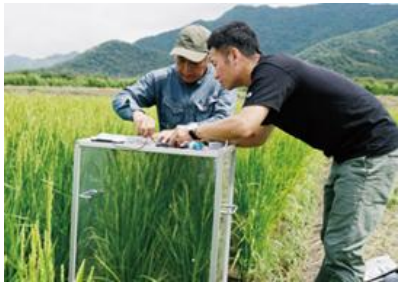
将来にわたり事業を継続していくため、自然への「依存・影響」、「リスク・機会」の評価を行い開示

■自然関連の「リスク・機会」

評価対象	リスク	機会
酒類製造	・規制強化に伴う製造コスト増	・環境に配慮した製品の需要増
米の生産	・異常気象による調達コスト増	・環境に配慮した農法の検討と実践 ・環境保全活動へのサポート ・環境教育の実施

■自然関連の「機会」への対応

環境に配慮した製品	活動のサポート	環境教育
松竹梅白壁蔵「然土」	タカラ・ハーモニストファンド	宝酒造「田んぼの学校」









Smiles in Life ～笑顔は人生の宝～

酒類・日本食材領域で和酒・日本食を世界の日常にすること、
ライフサイエンス産業支援領域で健康を一人ひとりへ届けることに加え、
新たな領域で価値を創造し、世界に笑顔を広げていく



将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ先＞
宝ホールディングス株式会社
広報・ＩＲ部
E-Mail ir@takara.co.jp
TEL 075-241-5124

本日の内容

Ⅰ．中期経営計画2030　進捗状況

Ⅱ．2027年3月期　中間期業績　および　通期業績予想

1．宝グループ連結
2．宝酒造
3．宝酒造インターナショナルグループ
4．タカラバイオグループ

Ⅲ．サステナビリティに対する取り組み

参考資料

2027年3月期 中間期業績	損益計算書・ 営業利益増減分析	宝ホールディングス（連結）
		宝酒造
		宝酒造インターナショナルグループ　合計
		宝酒造インターナショナルグループ　海外酒類事業
		宝酒造インターナショナルグループ　海外日本食材卸事業
		タカラバイオグループ
	貸借対照表	宝ホールディングス（連結）
	キャッシュフロー計算書	宝ホールディングス（連結）
	投資項目・政策保有株式 売却状況	宝ホールディングス（連結）
2027年3月期 通期業績予想	損益計算書・ 営業利益増減分析	宝ホールディングス（連結）
		宝酒造
		宝酒造インターナショナルグループ　合計
		宝酒造インターナショナルグループ　海外酒類事業
		宝酒造インターナショナルグループ　海外日本食材卸事業
		タカラバイオグループ
	ROE、ROIC 予想	宝ホールディングス（連結）
	為替変動の影響	宝ホールディングス（連結）

2027年3月期　宝ホールディングス（連結）　中間期業績

■宝ホールディングス（連結）　中間期業績

(百万円、%)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比
売上高	**210,870**	+ 13.0	+ 2.9
売上総利益	**69,753**	+ 13.2	+ 5.1
営業利益	**13,112**	+ 68.4	+ 49.0
経常利益	**12,764**	+ 72.8	+ 63.6
親会社株主に帰属する中間純利益	**11,682**	+ 105.1	+ 98.0

■事業別 中間期業績

(百万円、%)

		2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比
宝酒造	売上高	**59,669**	+ 3.3	▲ 1.4
	営業利益	**2,638**	+ 7.1	+ 2.9
宝酒造インターナショナルグループ	売上高	**125,051**	+ 20.4	+ 5.7
	営業利益	**9,479**	+ 42.4	+ 29.1
海外酒類事業	売上高	**15,222**	+ 15.6	+ 1.7
	営業利益	**6,359**	+ 10.3	+ 2.9
海外日本食材卸事業	売上高	**111,158**	+ 20.8	+ 6.1
	営業利益	**4,031**	+ 142.1	+ 93.8
タカラバイオグループ	売上高	**19,525**	+ 3.9	▲ 1.9
	営業利益	**▲ 593**	–	–

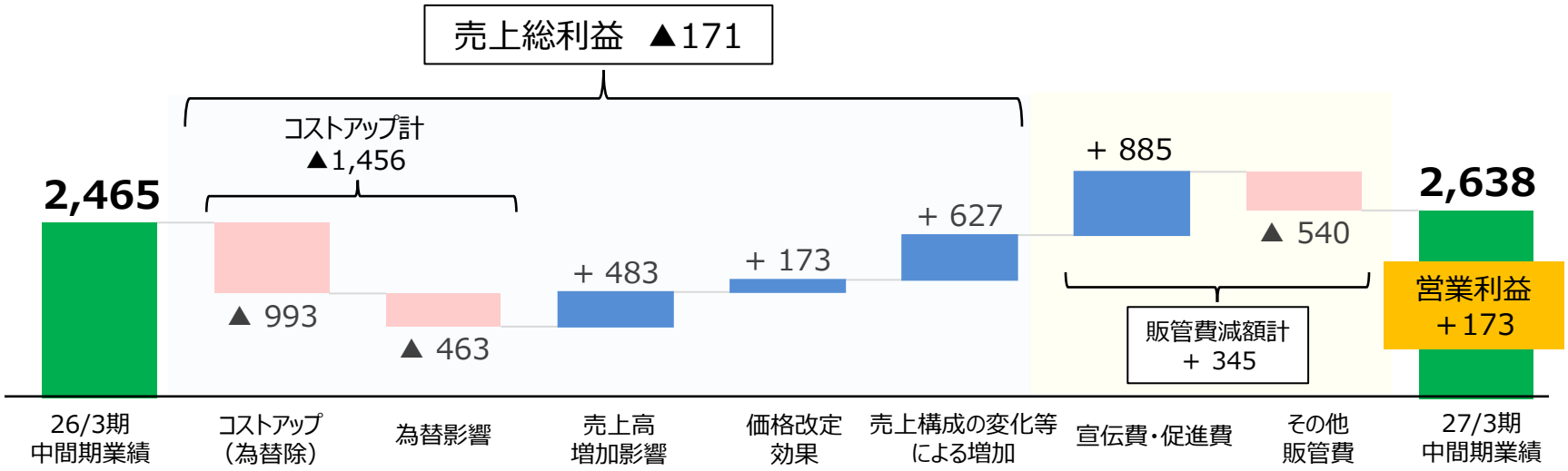
2027年3月期　宝酒造　中間期業績　営業利益増減分析〈対前期〉

■宝酒造　中間期業績

(百万円、%)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比
売上高	**59,669**	+ 3.3	▲ 1.4
売上総利益	**14,464**	▲ 1.2	▲ 3.6
営業利益	**2,638**	+ 7.1	+ 2.9
経常利益	**2,552**	+ 5.2	+ 2.7
中間純利益	**2,279**	+ 35.6	▲ 3.0

◇対2026年3月期　中間期業績 営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）

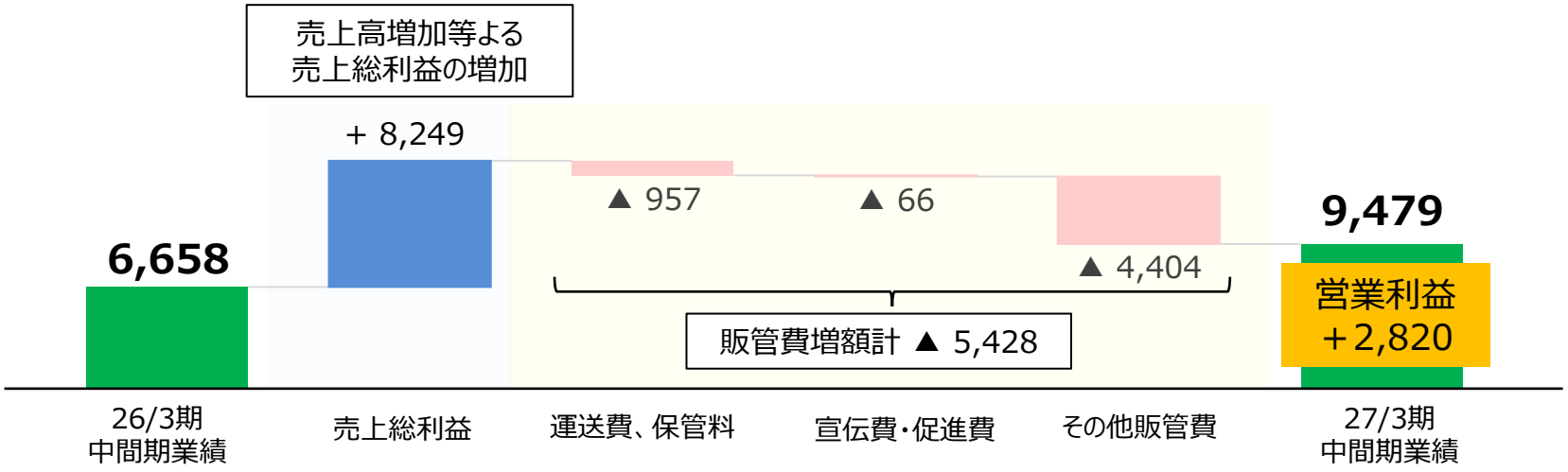


■宝酒造インターナショナルグループ　中間期業績

(百万円、%)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比
売上高	**125,051**	+ 20.4	+ 5.7
売上総利益	**42,477**	+ 24.1	+ 10.1
営業利益	**9,479**	+ 42.4	+ 29.1
経常利益	**9,536**	+ 60.8	+ 34.4
親会社株主に帰属する中間純利益	**6,030**	+ 63.2	+ 36.1

◇対2026年3月期　中間期業績 営業利益増減分析（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



■海外酒類事業　中間期業績

(百万円、%)

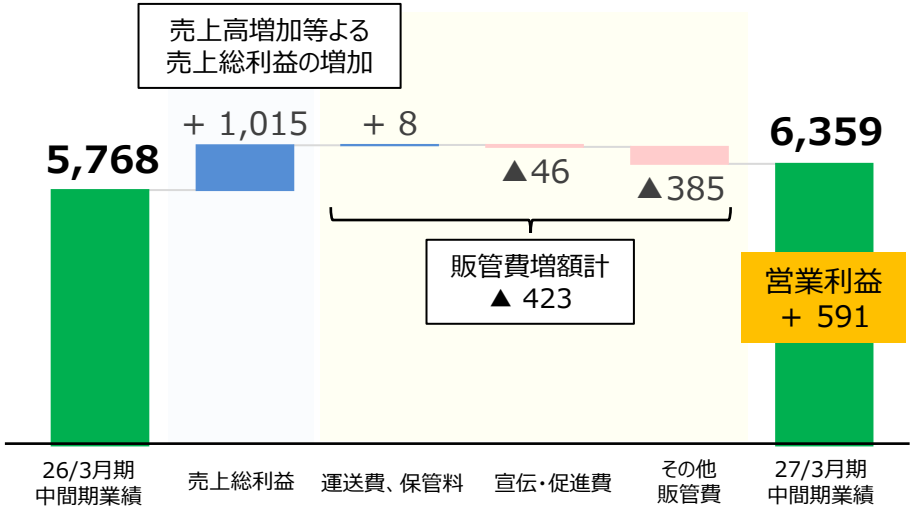
	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比
売上高	**15,222**	+ 15.6	+ 1.7
売上総利益	**8,182**	+ 14.2	+ 2.9
営業利益	**6,359**	+ 10.3	+ 2.9

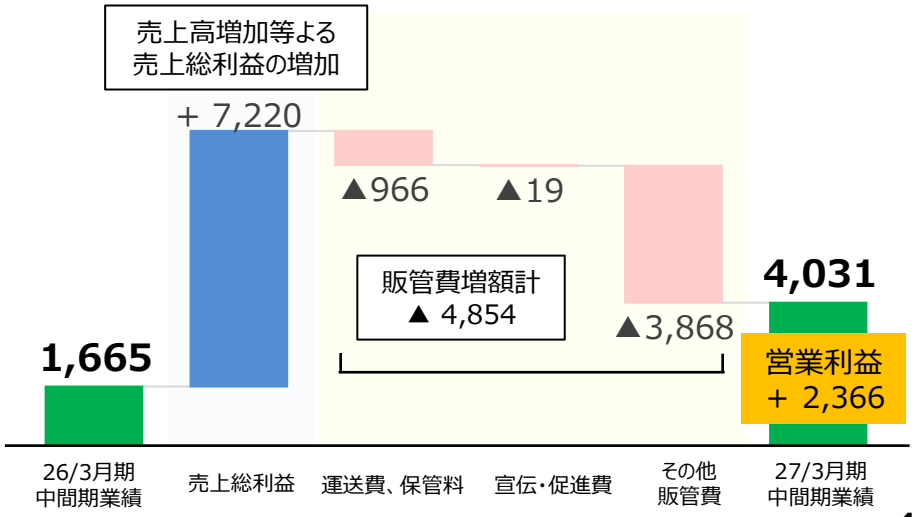
■海外日本食材卸事業　中間期業績

(百万円、%)

	2027年3月期 中間期業績	前期比	5月予想比
売上高	**111,158**	+ 20.8	+ 6.1
売上総利益	**34,266**	+ 26.7	+ 11.8
営業利益	**4,031**	+ 142.1	+ 93.8

◇対2026年3月期　中間期業績 営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円)



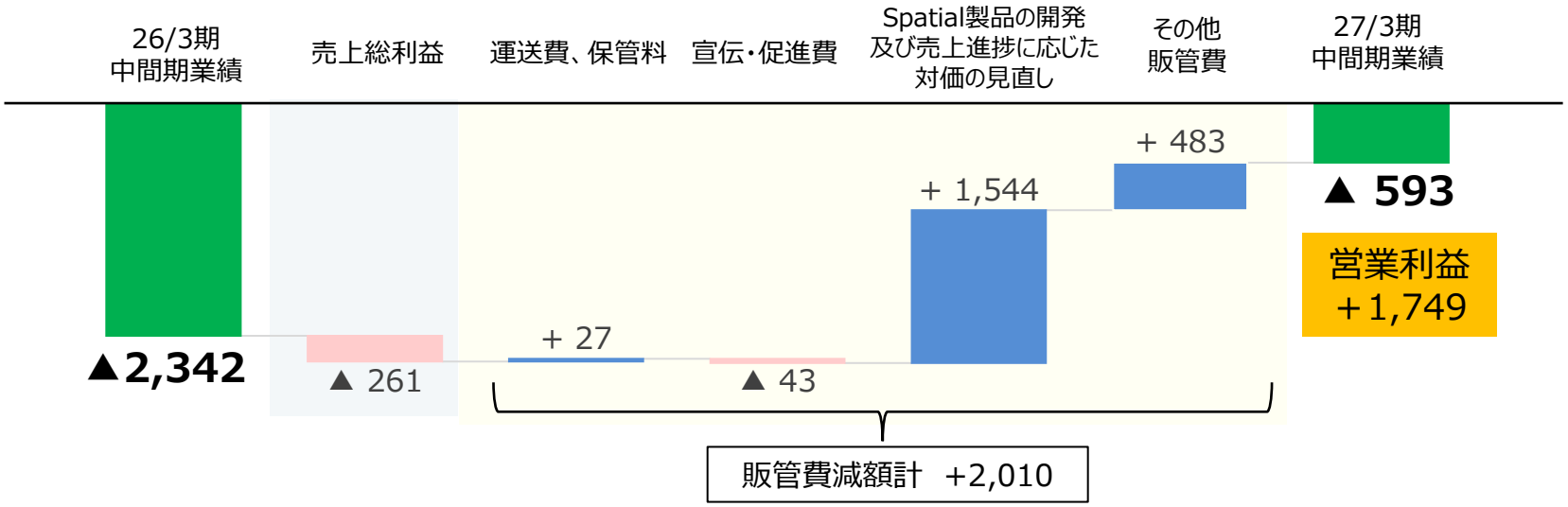


■タカラバイオグループ　中間期業績

(百万円、%)

	2027年3月期 中間期業績	前期差	5月予想差
売上高	19,525	+ 730	▲ 374
売上総利益	10,303	▲ 261	▲ 218
営業利益	▲ 593	+ 1,749	+ 1,756
経常利益	▲ 634	+ 1,851	+ 1,865
親会社株主に帰属する中間純利益	▲ 848	+ 6,063	+ 3,601

◇対2026年3月期　中間期業績 営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円)



2027年3月期　中間期　宝ホールディングス（連結）　貸借対照表

（単位：百万円）

	2027年3月期 中間期末	増減
流動資産	**250,600**	+ 1,286
現金及び預金	**65,485**	▲ 7,705
受取手形及び売掛金	**78,446**	+ 874
棚卸資産	**94,831**	+ 3,301
その他	**11,836**	+ 4,815
固定資産	**268,270**	+ 3,784
有形固定資産	**132,593**	▲ 474
無形固定資産	**59,721**	▲ 647
投資その他の資産	**75,955**	+ 4,906
資産合計	**518,871**	+ 5,070

	2027年3月期 中間期末	増減
流動負債	**141,118**	+ 59,080
支払手形及び買掛金	**27,670**	+ 890
借入金・社債	**65,763**	+ 54,348
その他	**47,684**	+ 3,841
固定負債	**109,606**	▲ 11,219
借入金・社債	**45,400**	▲ 5,030
その他	**64,205**	▲ 6,189
負債合計	**250,724**	+ 47,860
株主資本合計	**185,266**	▲ 11,753
資本金・資本剰余金	**13,226**	▲ 2,804
利益剰余金	**180,143**	▲ 5,949
自己株式	**▲ 8,103**	▲ 2,999
その他包括利益累計額	**71,120**	+ 8,800
非支配株主持分	**11,760**	▲ 39,837
純資産合計	**268,147**	▲ 42,790
負債純資産合計	**518,871**	+ 5,070
自己資本比率(%)	**49.4%**	▲ 1.1

2027年3月期　中間期　宝ホールディングス（連結）　キャッシュフロー計算書

◇連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2026年3月期 中間期業績	**2027年3月期 中間期業績**	増減
営業キャッシュフロー	5,968	5,225	▲ 742
投資キャッシュフロー	▲ 18,352	▲ 111	+ 18,241
フリーキャッシュフロー	▲ 12,383	5,114	+ 17,498
財務キャッシュフロー	▲ 6,794	▲ 14,050	▲ 7,255
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 2,112	1,444	+ 3,556
現金及び現金同等物の中間期末残高	54,039	61,634	+ 7,595

2027年3月期　中間期　宝ホールディングス（連結）投資項目･政策保有株式の売却状況

◇主な投資項目

(百万円)

	2026年3月期 中間期業績	**2027年3月期 中間期業績**	前期比	
			増減	率（%）
設備投資額	17,894	**3,806**	▲ 14,087	▲78.7
減価償却費（有形･無形）	5,950	**6,374**	+ 424	+7.1
のれん償却費	1,559	**1,601**	+ 42	+2.7

■主な設備投資

宝酒造：松戸工場他 設備設置等
宝酒造インターナショナルグループ：海外子会社 リース車両、倉庫増設等

◇政策保有株式の売却

売却銘柄数	16
売却額	約38億円

2027年3月期　通期業績予想

■宝ホールディングス（連結）　通期業績予想

(百万円、%)

	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**430,000**	+ 9.0	+ 2.4
売上総利益	**140,600**	+ 10.1	+ 2.9
営業利益	**21,400**	+ 25.3	+ 13.8
経常利益	**19,800**	+ 17.4	+ 16.5
親会社株主に帰属する当期純利益	**17,400**	+ 48.8	+ 46.2

■事業別 通期業績予想

(百万円、%)

		2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
宝酒造	売上高	**120,484**	+ 1.1	+ 0.3
	営業利益	**5,068**	▲ 11.5	▲ 13.1
宝酒造インターナショナルグループ	売上高	**255,000**	+ 14.9	+ 5.1
	営業利益	**18,600**	+ 31.0	+ 24.0
海外酒類事業	売上高	**31,800**	+ 11.6	+ 5.6
	営業利益	**13,340**	+ 6.8	+ 9.0
海外日本食材卸事業	売上高	**225,600**	+ 15.1	+ 4.8
	営業利益	**7,091**	+ 108.0	+ 55.5
タカラバイオグループ	売上高	**41,284**	+ 2.4	▲ 6.2
	営業利益	**▲ 2,700**	–	–

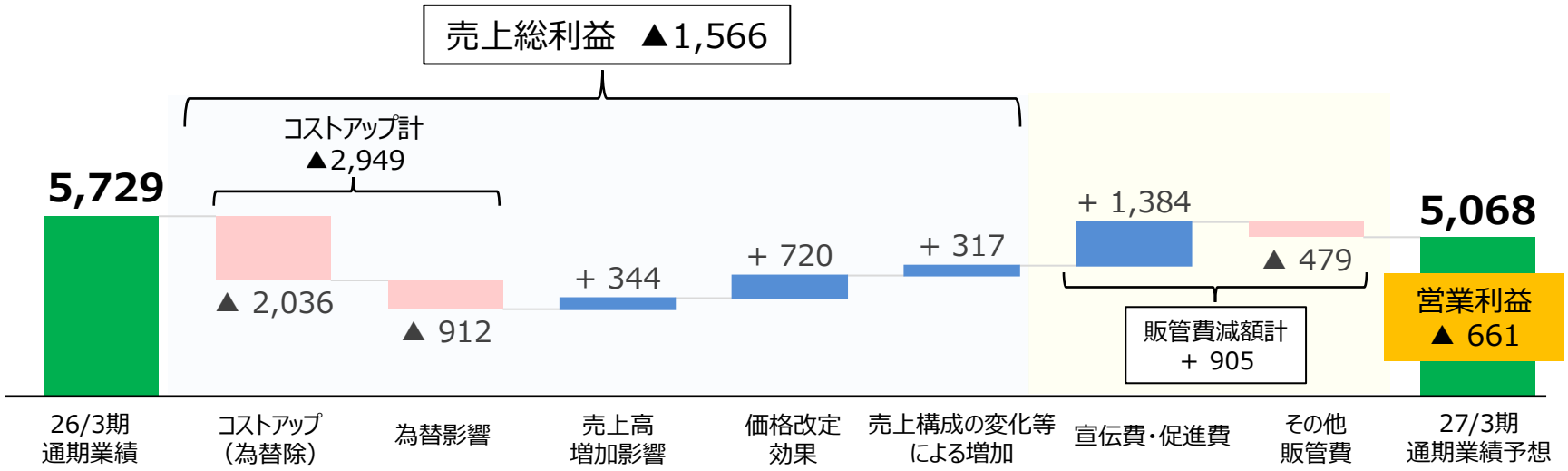
2027年3月期　宝酒造　通期業績予想　営業利益増減分析〈対前期〉

■宝酒造　通期業績予想

(百万円、%)

	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**120,484**	+ 1.1	+ 0.3
売上総利益	**28,608**	▲ 5.2	▲ 5.9
営業利益	**5,068**	▲ 11.5	▲ 13.1
経常利益	**4,785**	▲ 15.7	▲ 14.1
当期純利益	**3,614**	+ 2.8	▲ 14.0

◇対2026年3月業績 営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円)



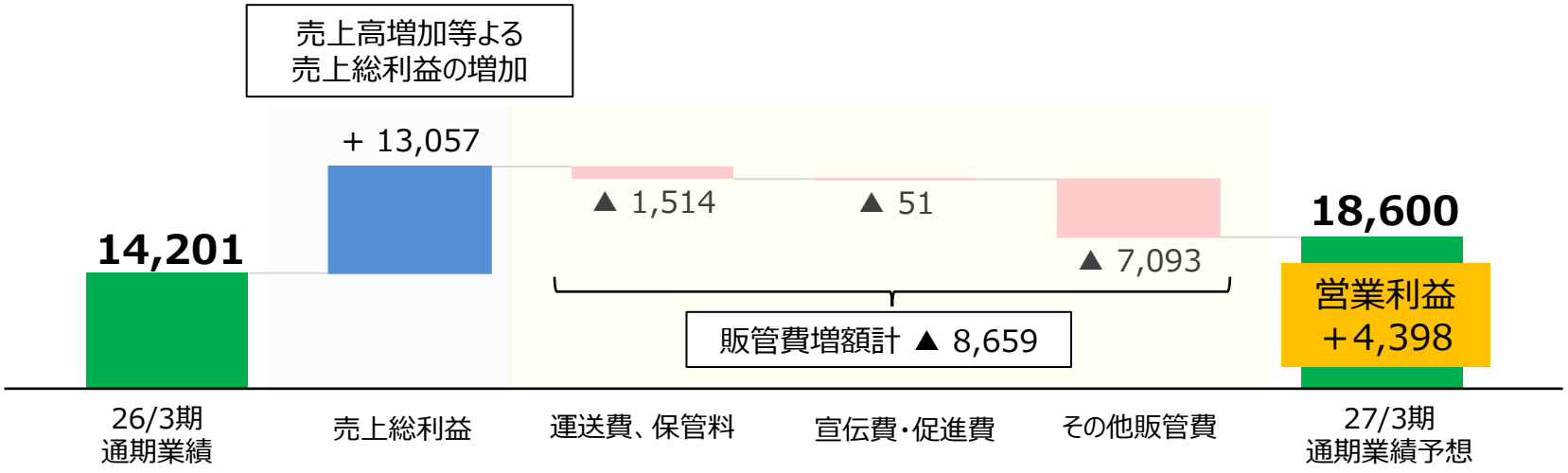
■宝酒造インターナショナルグループ　通期業績予想

(百万円、%)

	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**255,000**	+ 14.9	+ 5.1
売上総利益	**85,870**	+ 17.9	+ 9.1
営業利益	**18,600**	+ 31.0	+ 24.0
経常利益	**18,450**	+ 37.2	+ 28.5
親会社株主に帰属する当期純利益	**9,553**	+ 18.2	+ 7.0

◇対2026年3月期業績 営業利益増減分析

（利益の増加要因を「＋」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



■海外酒類事業　通期業績予想

(百万円、%)

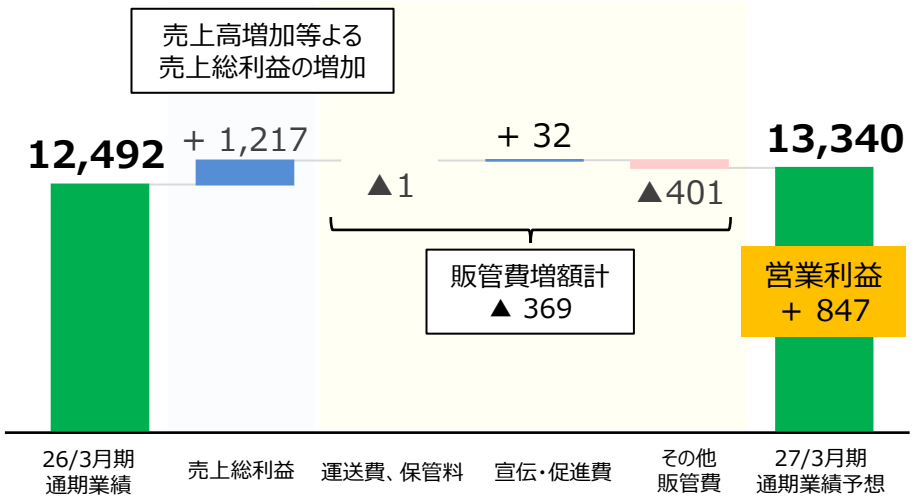
	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**31,800**	+ 11.6	+ 5.6
売上総利益	**17,080**	+ 7.7	+ 7.3
営業利益	**13,340**	+ 6.8	+ 9.0

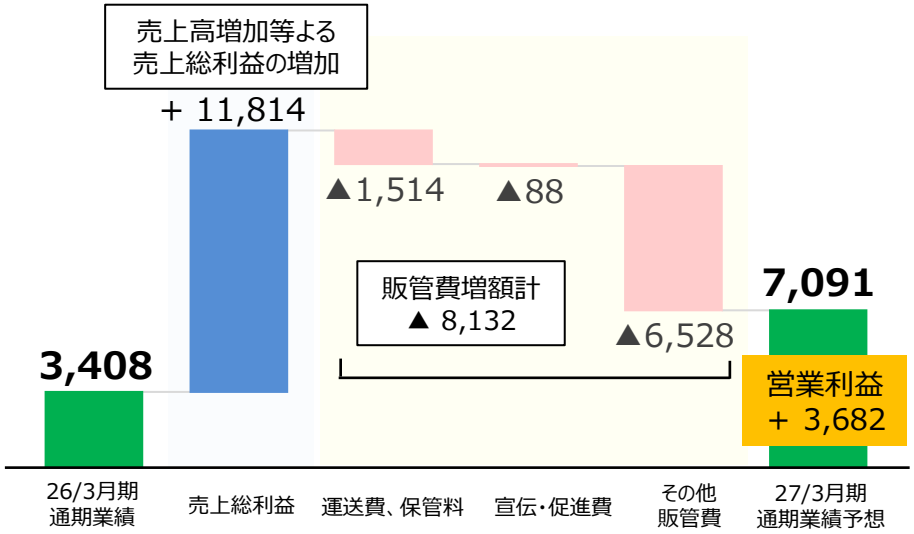
■海外日本食材卸事業　通期業績予想

(百万円、%)

	2027年3月期 通期業績予想	前期比	5月予想比
売上高	**225,600**	+ 15.1	+ 4.8
売上総利益	**68,800**	+ 20.7	+ 9.5
営業利益	**7,091**	+ 108.0	+ 55.5

◇対2026年3月期業績 営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



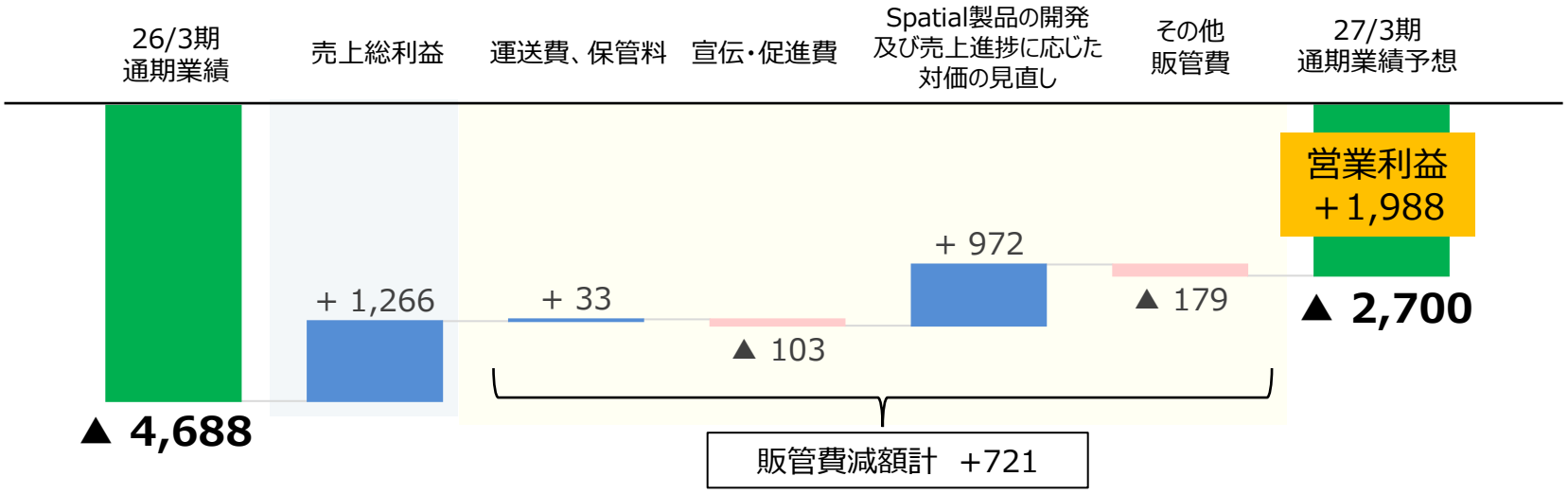


■タカラバイオグループ　通期業績予想

(百万円、%)

	2027年3月期 通期業績予想	前期差	5月予想差
売上高	**41,284**	+ 965	▲ 2,716
売上総利益	**21,528**	+ 1,266	▲ 1,262
営業利益	**▲ 2,700**	+ 1,988	-
経常利益	**▲ 2,909**	+ 2,083	+ 91
親会社株主に帰属する当期純利益	**▲ 6,519**	+ 3,080	▲ 119

◇対2026年3月期業績 営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



2027年3月期　通期　宝ホールディングス（連結）　ROE、ROIC　予想

	2026年3月期 通期業績	2027年3月期 5月予想	**2027年3月期 通期業績予想**	前期比	5月予想比
ROE	**4.6%**	**4.8%**	**6.7%**	+ 2.1pt	+ 2.0pt
当期純利益	11,696	11,900	17,400	+ 48.8%	+ 46.2%
自己資本 (2点平均)	252,284	251,560	259,968	+ 3.0%	+ 3.3%
ROIC	**3.1%**	**3.4%**	**3.8%**	+ 0.7pt	+ 0.4pt
NOPAT	11,782	12,972	14,766	+ 25.3%	+ 13.8%
投下資本 (2点平均)	382,133	384,893	393,843	+ 3.1%	+ 2.3%

2027年3月期　為替変動の影響

◇主な為替の見通し（対前期）

	2026年3月期 実績	**2027年3月期 予想**	差異	**期初予想**
米ドル/円	149.62	**158.00**	8.38	151.00
ポンド/円	197.38	**211.30**	13.92	199.00
ユーロ/円	169.19	**183.00**	13.81	175.00

◇セグメント別の為替感応度

(百万円)

	対ドル１円円安時の 当期の営業利益への影響
宝酒造	▲113
宝酒造ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ	116
タカラバイオグループ	16
合計	19